

各教科等における学習上の困難さに応じた指導の工夫例

日田教育事務所 指導課

1 趣旨

新学習指導要領では、各教科等において、「障害のある児童（中学校は生徒）などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと」と示されています。

解説では、さらに次のような記載があります。

通常学級においても、発達障害を含む障害のある児童（中学校は生徒）が在籍している可能性があることを前提に、全ての教科等において、一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導や支援ができるよう、障害種別の指導の工夫のみならず、各教科等の学びの過程において考えられる困難さに対する指導の工夫の意図、手立てを明確にすることが重要である。

日田教育事務所では、各教科等の学習指導案に「**努力を要する状況**」の児童への手立てと「**特別な支援等の配慮を要する**」児童生徒への手立ての二つを具体的に明記するよう、管内小中学校に対して指導助言することで、すべての児童生徒に十分な学びを保障することを目指した授業改善を進めているところです。

そこで、各教科における児童生徒一人一人の学習上の困難さに応じた指導を、すべての教職員がより適切に行うための支援として、「特別な支援等の配慮を要する」児童生徒への手立ての具体を例示しました。

2 「特別な支援等の配慮を要する」児童生徒への手立てを講じる際の留意点

(1) 対象となる児童生徒

医師による診断書の有無にかかわらず、教師による見取りで学習上の困難さが見られる児童生徒には、手立てを講じる必要があります。

学習上の困難さには、見えにくさ、聞こえにくさ、道具の操作の困難さ、移動上の制約、健康面や安全面での制約、発音のしにくさ、心理的な不安定、人間関係の困難さ、読み書きや計算等の困難さ、注意を持続することが苦手であることなど、学習活動を行う場合に生じるさまざまな困難さがあります。

(2) 合理的配慮との関連について

指導の工夫の中には、対象となる児童生徒のみにタブレット端末を貸与するなどといった「合理的配慮」に当たるものもあります。合理的配慮の提供においては、事前に児童生徒本人や保護者との合意形成を図っておく必要があります。また、合理的配慮の内容を個別の指導計画に明記することで、引継ぎの資料となり、一貫性のある指導ができます。

3 各教科における指導の工夫例

以下に例示した手立ては、小中学校で広くイメージできるように、やや抽象的に記しております。指導案に記入する際には、児童生徒の困難さや教材の特性に応じて具体的に書いていただくと、指導のポイントがより明確になり、自校の教職員で共有しやすくなります。

(1) 国語科における指導の工夫例①

困難さの状態	指導上の工夫の意図	手立て
学習の見通しをもつことが難しい。	本時の学習の見通しをもてるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の流れが分かるように、本時の活動の流れを板書しておく。
文章を目で追いながら音読することが難しい。	自分がどこを読むのかが分かるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の文を指等で押さえながら読むよう促す。 ・行間を空けるために拡大コピーをしたものを用意する。 ・語のまとまりや区切りが分かるように分かち書きされたものを用意する。 ・読む部分だけが見える自助具（スリットやミニ定規等）を活用する。
声を出して発表することが難しい。または、人前で話すことへの不安を抱いている。	自分の考えを表すことに対する自信がもてるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・紙やホワイトボードに書いたものを提示したり、ICT機器を活用して発表したりするなど、多様な表現方法が選択できるようにする。
必要なことを的確に話すことが難しい。	自分の考えを話すことに自信がもてるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・（どう話してよいか分からない子どもに対して）「○○だと思います。理由は～」といった話型を示して話させる。 ・（まとまりなく話し続けてしまう子どもに対して）一度に発言する秒数を決め、教師が指を折るのを見ながら話させる。
自分の考えをまとめたり、文章の内容と自分の経験を結びつけたりすることが難しい。	どのように考えればよいか分かるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・考える事柄や学習過程を示した学習スケジュール表やプリントを用意する。 ・「クラゲチャート」などの思考ツールを活用する。
比較的長い文章を書くなど、一定量の文字を書くことが難しい。	文字を書く負担を軽減する。	<ul style="list-style-type: none"> ・板書の文字の色を変えて、児童生徒がノートに書き写す事柄の軽重を付ける。 ・手書きしなくてよいICT機器を使って文章を書くことができるようにする。

国語科における指導の工夫例②

困難さの状態	指導上の工夫の意図	手立て
自分の立場以外の視点で考えたり他者の感情を理解したりするのが難しい。	登場人物の心情をとらえることができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の日常的な生活経験に関する例文を示す。 ・児童生徒が身近に感じられる文章（例えば、同年代の主人公の物語など）を取り上げる。 ・会話文、地の文（行動描写、情景描写、色彩語）など、視点を絞ってとらえさせる。 ・気持ちの移り変わりが分かる文章の中のキーワードを示す。 ・気持ちの変化を図や矢印などで視覚的に分かるように示してから言葉で表現させる。

（２）社会科における指導の工夫例

困難さの状態	指導上の工夫の意図	手立て
地図等の資料から必要な情報を見付け出したり、読み取ったりすることが難しい。	地図等の資料を読み取りやすくする。	<ul style="list-style-type: none"> ・地図等の情報を拡大したり、見る範囲を限定したりして、掲載されている情報を精選し、視点を明確にする。 ・見せたい部分を始めは隠しておき、児童生徒の注意を焦点化する。
社会的事象に興味・関心をもちにくい。	社会の営みと身近な生活がつながっていることを実感し、その社会的事象の意味を理解できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動などとの関連付けなどを通して、具体的・実際的な体験や作業などを取り入れる。 ・安心して学習できるよう、学習の順序を分かりやすく説明する。
学習過程における動機付けの場面において学習上の課題を見いだすことが難しい。	社会的事象等を読み取り、問題意識をもてるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・写真などの資料や発問を工夫する。 例：ゴミが入っていたレジ袋の山の写真 ゴミがお金になるという資料
方向付けの場面において、予想を立てることが難しい。	学習順序を考えられるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもつためのヒントになる事実をカード等に整理して示す。
情報収集や考察、まとめの場面において、考える際の視点を定めることが難しい。	どの視点で考えればよいかわかるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・視点を絞ったワークシートを用意する。

(3) 算数科における指導の工夫例

困難さの状態	指導上の工夫の意図	手立て
「商」「等しい」など、児童生徒が日常使用することが少なく、抽象度の高い言葉の理解が難しい。	具体的にイメージをもつことができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の興味・関心や生活経験に関連の深い題材を取り上げて、既習の言葉や分かる言葉に置き換える。
文章を読み取り、式を用いて数量の関係を表すことが難しい。	数量の関係をイメージできるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の経験に基づいた場面や興味ある題材を取り上げる。 具体物を用いて場面を動作化させる。 解決に必要な情報に注目できるように文章を一部分ごとに示したり、図式化したりする。
空間図形のもつ性質を理解することが難しい。	空間における直線や平面の位置関係をイメージできるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 立体模型で特徴のある部分を触らせるなどしながら、言葉でその特徴を説明させたり、見取図や展開図と見比べて位置関係を把握させたりする。
データを目的に応じてグラフに表すことが難しい。	目的に応じたグラフの表し方があることを理解することができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 同じデータについて折れ線グラフの縦軸の幅を変えたグラフを用意する。 同じデータを棒グラフや折れ線グラフ、帯グラフなど違うグラフに表したりして見比べさせる。

(4) 理科における指導の工夫例①

困難さの状態	指導上の工夫の意図	手立て
実験を行う活動において、実験の手順や方法を理解することが困難であったり、見通しがもてなかったりして、学習活動に参加することが難しい。	学習の見通しがもてるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 実験の目的を明示する。 実験の手順や方法を視覚的に表したプリント等を掲示したり、配付したりする。 扱いやすい実験器具を用意する。
自然の事物・現象を観察する活動において、時間をかけて観察することが難しい。	短時間で観察する活動ができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 観察するポイントを示す。 I C T教材を活用する。

理科における指導の工夫例②

困難さの状態	指導上の工夫の意図	手立て
<p>燃焼実験のように危険を伴う学習活動において、危険に気が付きにくい。</p>	<p>危険のないようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が確実に様子を把握できる場所で活動できるようにする。

(5) 生活科における指導の工夫例

困難さの状態	指導上の工夫の意図	手立て
<p>言葉での説明や指示だけでは、安全に気を付けることが難しい。</p>	<p>説明や指示の意味を理解し、なぜ危険なのかをイメージできるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体験的な事前学習を行う。
<p>みんなで使うもの等を大切に扱うことが難しい。</p>	<p>大切に扱うことの意義や他者の思いを理解できるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習場面に即して、児童生徒の生活経験等も踏まえながら具体的に教える。
<p>自分の経験を文章にしたり、考えをまとめたりすることが難しい。</p>	<p>児童生徒がどのように考えればよいのか、具体的なイメージを想起しやすいようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・考える項目や順序を示したプリントを準備する。 ・事前に自分の考えたことを言葉や動作で表現したりしてから文章を書くようにする。
<p>学習の振り返りの場面において学習内容の想起が難しい。</p>	<p>学習経過を思い出しやすいようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習経過などの分かる文章や写真、イラスト等を活用する。
<p>初めての場所に行くことが苦手である。</p>	<p>事前に明確な見通しをもてるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・出会いの興味を失わない程度に訪れる予定の場所の写真を見せておく。 ・活動の正確な予定時刻を記したカードを用意する。
<p>(得意なこと) 計時ができる。</p>	<p>得意なことを生かし、自己肯定感を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・活動グループの計時係として活躍させる。

(6) 音楽科における指導の工夫例

困難さの状態	指導上の工夫の意図	手立て
音楽を形づくっている要素（リズム、速度、旋律、強弱、反復等）の聴き取りが難しい。	要素に着目しやすくなるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 音楽に合わせて一緒に拍を打ったり体を動かしたりするなどして、要素の表れ方を視覚化、動作化する。ただし、動作化する際は、決められた動きのパターンを習得するような活動にならないよう留意する。
多くの声部が並列している楽譜など、情報が多く、自分がどこに注目したらよいのか混乱しやすい。	楽譜などから情報をとらえやすくする。	<ul style="list-style-type: none"> 拡大楽譜などを用いて声部を色分けしたり、リズムや旋律を部分的に取り出してカードにししたりするなど、視覚的に情報を整理する。
音楽を聴くことによって自分の内面に生まれる様々なイメージや感情を言語化することが難しい。	表現したい言葉を思い出すきっかけをつくる。	<ul style="list-style-type: none"> イメージや感情を表す形容詞などのキーワードを示し、選択できるようにする。

(7) 図画工作科／美術科における指導の工夫例

困難さの状態	指導上の工夫の意図	手立て
形や色彩などの変化を見分けたり、微妙な違いを感じ取ったりすることが難しい。	造形的な特徴を理解し、技能を習得できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の経験や実態を考慮して、造形の要素の特徴や働きが分かりやすいものを例示する。 一人一人が自分に合ったものが選べるように、多様な材料や用具を用意する。 種類や数を絞る。
形や色などの特徴を捉えることや、自分のイメージをもつことが難しい。	形や色などに気付くことや自分のイメージをもつことのきっかけを得られるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 自分や友人の感じたことや考えたことを言葉にする場を設定する。

(8) 外国語科における指導の工夫例

困難さの状態	指導上の工夫の意図	手立て
音声を聞き取ることが難しい。	外国語と日本語の音声やリズムの違いに気付くことができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> リズムやイントネーションを、教員が手拍子を打つ、手を上下に動かして音の強弱を表す。
英語の語には、発音と綴りの関係に必ずしも規則性があるとは限らないものが多いが、明確な規則にこだわって強い不安や抵抗感を抱いてしまう。	ねらいに沿って安心して取り組んだり発音したりできるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 語を書いたり発音したりすることをねらう活動では、その場で発音することを求めない。 似た規則の語を選んで扱う。
1単語当たりの文字数が多い単語や、文などの文字情報になると、読む手掛かりをつかんだり、細部に注意を向けたりするのが難しい。	語のまとまりや文の構成を見て捉えやすくするようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 外国語の文字を提示する際に字体をそろえたり、線上に文字を書いたりする。 語彙・表現などを記したカードなどを黒板に貼る際に、貼る位置や順番などに配慮する。
質問に対する解答が思い浮かばない。	解答する手がかりをもてるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 手元にホワイトボードを用意し、そこにヒントとなることを書く。

(9) 体育科／保健体育科における指導の工夫例①

困難さの状態	指導上の工夫の意図	手立て
勝ち負けや記録にこだわり過ぎて、感情をコントロールすることが難しい。	状況に応じて感情がコントロールできるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 事前に活動の見通しを立ててから活動させる。 勝ったときや負けたときの表現の仕方を事前に確認する。
見えにくさのため活動に制限がある。	不安を軽減したり安全に実施したりすることができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 活動場所や動きを事前に確認する。 仲間同士で声を掛け合う方法を事前に決める。 音が出る用具を使用する。
身体の動きに制約があり、活動に制限がある。	生徒の実情に応じて仲間と積極的に活動できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 用具やルールの変更を行う。 用具やルールの変更について仲間と話し合う活動を行う。 補助用具を用意する。

体育科／保健体育科における指導の工夫例②

困難さの状態	指導上の工夫の意図	手立て
リズムやタイミングに合わせて動くことや複雑な動きをすること、ボールや用具の操作等が難しい。	動きを理解したり、自ら積極的に動いたりすることができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・動きを細分化して指導する。 ・動きを視覚的又は言語情報に変更したり簡素化したりして提示する。 ・動かす体の部位を意識させる。 ・適切に補助しながら行わせる。 ・操作が易しい用具を使用する。 ・用具の大きさを変更する。
試合や記録測定、発表などの状況の変化への対応が求められる学習活動への参加が難しい。	生徒の実情に応じて状況の変化に対応できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・挑戦することを認め合う雰囲気づくりに配慮する。 ・ルールを弾力化する。 ・場面設定を簡略化する。
日常生活とは異なる環境での活動が難しい。	不安を解消できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の順序や具体的な内容を段階的に説明する。
対人関係への不安が強く、他者の体に直接触れることが難しい。	仲間とともに活動することができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ロープやタオルなどの補助用具を用いる。
自分の力をコントロールすることが難しい。	状況に応じて力のコントロールができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・力の出し方を視覚化する。 ・力の入れ方を数値化する。
グループでの準備や役割分担が難しい。	準備の必要性やチームで果たす役割の意味について理解することができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・準備や役割分担を視覚的に明示する。 ・生徒の実情に応じて取り組むことができる役割から段階的に取り組ませる。
保健の学習で、実習などの学習活動に参加することが難しい。	実習の手順や方法が理解できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の手順や方法を視覚的に示す。 ・一つ一つの技能を個別に指導する。

(10) 家庭科／技術・家庭科における指導の工夫例

困難さの状態	指導上の工夫の意図	手立て
学習に集中したり、持続したりすることが難しい。	落ち着いて学習できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・道具や材料を必要最小限に抑えて準備する。 ・整理・整頓された学習環境で学習できるようにする。
活動への関心をもつことが難しい。	活動への関心を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・約束や注意点、手順等を視覚的に捉えられる掲示物やカードを明示する。 ・体感できる教材・教具を用意する。
周囲の状況に気が散りやすく、包丁、アイロン、ミシンなどの用具を安全に使用することが難しい。	手元に集中して安全に作業に取り組めるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の対応ができるような作業スペースや作業時間を確保する。 ・実習中の約束事を決め、随時児童生徒が視覚的に確認できるようにする。
グループで活動することが難しい。	グループでの役割を担って活動することができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・他の生徒と協力する具体的な内容を明確にして役割分担する。 ・役割が実行できたかを振り返る。
新たなプログラムを設計することが難しい。	一部を自分なりに改良できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が考えやすいように、教師があらかじめ用意した幾つかの見本となるプログラムをデータとして準備する。 ・難易度を調整し、段階的な指導をする。

(11) 特別活動における指導の工夫例

困難さの状態	指導上の工夫の意図	手立て
学校行事における避難訓練等の参加に対し、強い不安を抱いたり戸惑ったりする。	活動の見通しがもてるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・各活動や学校行事のねらいや活動の内容、役割(得意なこと)の分担などについて、視覚化したり、理解しやすい方法を用いたりして事前指導を行うとともに、周囲の児童生徒(生徒)に協力を依頼しておく。
相手の気持ちを察したり理解したりすることが難しい。	他者の心情等を理解しやすいようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・役割を交代して相手の気持ちを考えさせる。 ・相手の意図を理解しやすい場面に置き換える。 ・イラスト等を活用して視覚的に表す。
話を最後まで聞いて答えることが難しい。	発言するタイミングが理解できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に発言や質問する際のタイミングなどについて具体的に伝えるなど、コミュニケーションの回り方についての指導をする。

(12) 特別の教科道徳における指導の工夫例

困難さの状態	指導上の工夫の意図	手立て
相手の気持ちを想像することが苦手で字義通りの解釈をしてしまうことがあることや、暗黙のルールや一般的な常識が理解できないことから、他者との社会的関係の形成が難しい。	他者の心情を理解できるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> ・役割を交代して動作化、劇化したり、ルールを明文化したりする。

(13) 総合的な学習の時間における指導の工夫例

困難さの状態	指導上の工夫の意図	手立て
様々な事象を調べたり、得られた情報をまとめることが難しい。	必要な事象や情報を選択して整理できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・着目する点や調べる内容、まとめる手順や調べ方について具体的に提示する。
関心のある事柄を広げることが難しい。	関心のもてる範囲を広げることができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の関心事を核にして、それと関連する具体的な内容を示していく。
様々な情報の中から、必要な事柄を選択して比べることが難しい。	具体的なイメージをもって比較することができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・比べる視点の焦点を明確にしたり、より具体化して提示したりする。
学習の振り返りが難しい。	学習してきた場면을想起しやすいようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習してきた内容を文章やイラスト、写真等で視覚的に示すなどして、思い出すための手掛かりが得られるように配慮する。
人前で話すことへの不安から、自分の考えなどを発表することが難しい	安心して発表できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・発表する内容について紙面に整理し、その紙面を見ながら発表できるようにする。 ・ICT機器を活用する。

<参考資料>

文部科学省（2018）『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説』東洋館出版社